

実況中継「土曜講座」

第4号 2022年 6月16日発行

市川学園6月4日の土曜講座 於 國枝記念国際ホール

落合恵子先生

いのちの感受性……本の内と外

作家・クレヨンハウス主宰



落合恵子先生のご紹介

栃木県宇都宮市生まれ、明治大学英米文学科卒業後、株式会社文化放送に入社。アナウンサーを経て、退社後、作家生活を始める。執筆活動だけでなく、子どもの本の専門店「クレヨンハウス」を主宰し、『月刊こども論』『月刊クーヨン』の発行人も務める。活動は幅広く、声の小さい側に寄り添った執筆作品が多くある。食への関心も強く、オーガニックマガジン『いいね』を発行。自然食レストラン「HOME」の経営もするなど、「食」の問題にも取り組んでいる。

主な講義内容の紹介

今回の土曜講座は落合恵子先生による、いのちの感受性に関するお話でした。

先生は幼少期、「婚外子」であることを理由に様々な経験をしてきたそうです。未婚の状態子どもを産むことに対する風当たりが強い中、世間に背を向けて子どもを産もうとしたお母様の強さと愛情を受けて育ってきました。どんな事情があろうと、「あなたの人生だよ」という問いかけを行動で示してくれた近所のご夫婦の話などから、先生の考え方の原点にふれることができました。

お話の中で先生は「学校とは、子どもが自分の心を置ける場所。人と人が出会い、違いからお互いが学び合う場所。もしその中で差別が始まるなら、それは社会が間違っているということ。今がこの上なく屈辱的な環境であるならば、命をかけてまで学校にいく必要はない」とおっしゃっていました。そのようなお話を、先生の著書である『崖っぷちに立つあなたへ』をはじめ、ビリー・ホリデイの「奇妙な果実 (Strange Fruit)」やキャロル・キングの「You've Got a Friend」、ガブリエル・バンサンの『アンジュール ある犬の物語』など、様々な楽曲や絵本などの内容を交えてお話ししてくださいました。

先生が「クレヨンハウス」を主宰している理由は、自分の居場所が見つからずに苦しんでいる人たちに「居場所がここにあるよ」と手を挙げ続けることが大切だと考えているからであり、絵本で「何か」を伝えるた

めだそうです。皆さんも一度クレヨンハウスに足を運んでみてはいかがでしょうか。「何か」を感じる一冊に出会えるかもしれません。最後に先生から「I can't live your life. だからあなた自身を大切に」というお言葉をいただき、講座が終了しました。包み込むような優しさと人を惹きつける先生の語りに、会場全体が引き込まれていました。



受講レポートから

・「私たちの居場所とは？」という問いが最も記憶に残った。私の場合、居場所と問われても、ぱっとすぐには出てこなかった。だが、改めて考えると、私の居場所は「本」であり「家」であり「部活」であるというように、ちゃんとあることを思い出せた。先生が最初に「人は記憶でできている」とおっしゃっていたように今回の講座・問いかけに対し考えた記憶はきっとこれからの私をつくっていくのだと思った。質問できれば失礼します。先生にとって居場所とはどこですか？ (高1女子)

・「居場所」というのは学校とか家だけではなく、たとえば本だったり、音楽だったり、また言葉だったりも自分の場所になり得るということにすごく感動しました。私が、もし辛くなって、学校に行きたくなくなった時、クレヨンハウスに行ってみたくと思いました。最近、黒人差別反対運動とか芸能人が自殺してしまうニュースとか色々聞きすぎて、悪い意味で慣れてしまいそうなことについてまっすぐ考えることができ、自分1人でできることは少ないよねと言ってあきらめてしまうのはしょうがないことかもしれないけど、考えることをするだけで身近なものの見え方が変わっていくのではないのでしょうか。平和な世の中になってほしいですね。 (中2女子)



・今回のテーマの1つである「周りとの差を嫌がるのではなく、むしろそれに誇りを持つべき」というのに深く共感しました。落合さんは生まれが当時の子ども達とは違うという経験談を話されていましたが、私も小学4年~中学2年の時アメリカに住んでいたときに似たような経験をしました。英語を上手く話せなかったり、アジア系であった等様々な理由がありましたが、やはりなかなか溶け込めず、毎日悩んだりしていましたが、この差に誇りを持つべきという考え方にすごく納得しました。 (高3女子)

・まず、自分が正しいと思っていることや当たり前だと思っていることにも「本当にそうなのか」と向き合ってみることが重要だと思った。また、自分が「つらいな」と感じたときでも、早まらずに、さまざまな居場所に身を置いてみたりするべきだと思う。様々なことに挑戦したり、強い心を持つというのを大事にしていきたい。努力しても、上手くいかないことはあるけど、それを見てくれる人がいるのだから、がんばろうと思った。これから生きていくうえで、やっていきたいことや注意しなければならないことなど、色々な事を知る機会となった。素晴らしい講演ありがとうございました。自分だけの人生を存分に楽しみたい。 (中1男子)

・『これから私が話すことに対して、皆さんが「それ違うんじゃないかな」と思っても良いです。自分で考えることが大切です』と言われて、自分の心のフタが少し、開いたような気がした。私も生きていて、友達と話しているとき、弟をおんぶしているときなどに「私の居場所はここにある」と安心することがざらにあるが、私は1番「私は絶対に1人では生きていけない」と自認していて、寂しがり屋である。「ここはあなたの居場所だよ」という言葉ほど、求めているものがなかなか見つからない。生きていく上で大切なことをまた1つ知った気がした。この講演を選んでよかったと思った。 (中1女子)

